様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１１０９７

研究課題名（和文）子ども支援のための関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践モデルの策定

研究課題名（英文）Formulation of a practical model for school health nurses who coordinate the collaboration of support for children

研究代表者
亀崎　路子（KAMEZAKI, Michiko）

杏林大学・保健学部・教授

研究者番号：５０４１３０２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：子ども支援を意図して学校内外の関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践モデルを策定することを目的に、文献レビューと熟練養護教諭を対象としたインタビュー調査を行った。18のコーディネートの構成要素から実践モデルが策定され、養護教諭のコーディネートとは、子どものニーズに対して、困難な状況を解消しつつ、直接的に子どもが育つかかわりをするとともに、周囲の人との関係をつなぎ、子どもが育つための環境を醸成することであるという知見を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、複数の地域から熟練養護教諭を選定し、その熟練養護教諭の実践事例から効果的なコーディネートを具体的に抽出し、研究者の事例研究やアクションリサーチによる先行研究と、多領域にわたる文献レビューから生成した概念的枠組みを踏まえて、他の養護教諭に活用できる実践モデルを策定したことである。二つ目は、養護教諭が連携・協働をコーディネートしようとする際に現場で遭遇する困難感を具体的に明らかにし、その困難感に対処しつつ進展させるコーディネートの実践を具体的に示したことである。社会的意義は、養護教諭の実践の拠り所となり、児童生徒への支援に還元することが期待できることである。

研究成果の概要（英文）：To devise a practical model for school health nurses who collaborate with stakeholders inside and outside the school to support children, we conducted a literature review and interviewed experienced school health nurses. A practical model was formulated based on the 18 coordination components. This study found that coordination by school health nurses directly contributed to children’s development by addressing their needs in challenging situations. Moreover, it fosters relationships with others and creates an environment conducive to children’s growth.

研究分野：学校看護学

キーワード：子どもの健康課題　養護教諭　困難感　関係職種　協働　コーディネート　実践モデル

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、複雑化し、多岐にわたる子どもの健康問題に応じるため、学校では、地域の関係機関や関係職種との連携や協働は必須である。学校では、教育、医療、保健、福祉など多様な領域における外部人材や専門職を活用したチームとしての対応が推進され、養護教諭にコーディネーターとしての役割が求められている。実際に、外部の関係機関との連携のコーディネートを多くの養護教諭が担っている実態がある。

先行研究では、医療的ケア（津島 2006)、保健室登校（相楽 2011）における養護教諭のコーディネーションのプロセス、慢性疾患、不登校、個別のニーズ等における養護教諭のコーディネーションの実態や必要性（岡本 2008)、その構成要素（岡本 2011)、スクールカウンセラー等外部人材の学校への導入に際し、養護教諭が調整役を果たしてきた経緯等（亀崎 2016）が報告されているが、多くが学校内における児童生徒への支援を取り上げたものである。

これに対して、研究者は、熟練養護教諭の先駆的な取組を明らかにし（亀崎 2009、2011）この熟練者の実践を指針に用いて、他の養護教諭とともにアクションリサーチに取り組み、地域ネットワークづくりを通じて学校内外の関係職種とつながり、子ども支援の協働化を促進する方法を報告した（亀崎 2012、2014)。同時に、養護教諭は学校組織の中で一人だけ違った専門性を持つ職種であるがゆえに教職員集団への適応が課題とされ（小倉 1985)、困難感を抱える傾向があることが分かった。そのため、養護教諭の個人的な技術の熟練に依拠するのではなく、共通の困難感や現場の課題を明らかにしつつ、児童生徒のニーズに合った効果的なコーディネートを具体的に明らかにする必要がある。

２．研究の目的

本研究の目的は、地域の多様な関係職種との協働が必要な子どもの健康課題に気づき、現場の状況や困難感を踏まえつつ、子ども支援のための学校内外の関係職種との協働を効果的にコーディネートする養護教諭の実践モデルを策定することである。

３．研究の方法

本研究を開始した 2019 年度から 2020 年度に、倫理審査の承認を得て、研究者および研究協力者がつながりを持つ地域において、調査協力への同意の得られた小・中・高校養護教諭６名を対象に、関係職種との協働を展開し効果をあげた経験のある実践事例について、訪問またはオンラインによる半構成的インタビュー調査を実施した。同時期から 2021 年度にかけて、COVID-19 の蔓延と研究者の予期せぬ病気療養により、予定していたアクションリサーチによる実証的な研究は困難となったため、研究方法を再考した。2021 年度に、収集していた国内外の職種間協働や養護教諭のコーディネートに関する実践の文献や最新情報から、「多領域における職種間協働の効果的なコーディネートの実践」に関する知見を整理し、養護教諭のコーディネートへの示唆を考察した文献レビュー（亀崎 2022）を論文にして公表した。引き続き、研究期間を延長し、収集した実践事例の分析結果に、先行研究および文献レビューの知見を照らし合わせて、実践モデルの原案を作成した。その原案を、調査協力者である養護教諭６名と養護学を専門とし養護教諭経験者である研究協力者６名に提示し、妥当性と実行可能性について意見を収集し、修正を加え、実践モデル案を作成した。かつ、学会発表により広く意見を収集し、さらに実践モデル案を洗練し、実践モデルを策定した。本研究を総括する研究成果報告書を作成し、研究成果を公表した。

４．研究成果

(1)　研究１では、養護教諭のコーディネートに関する実践を検討するための基礎資料とするために文献レビューを行った。養護教諭は日本に固有の職種であることから、国内の文献に絞った。その結果、19 研究領域から、連携・協働のコーディネートの実践は 15 の要素に分類され、コーディネートの定義についての知見を得た。協働のコーディネートとは、当事者の生活の質の向上や生活環境を調えることを目標に、子どもや家族を尊重してかかわり続けるとともに、①社会資源との調整を図りつつ、②関係職種の異なる立場や役割の特性を引き出し、調和させ、効果的に機能するようなチームや体制を形成することを通じて、③全体の取り組みが有機的統合的に行えるように調整を図ることであるという、３層で表すことができた（図２）。これを養護教諭に適用すると、子どもが育つかかわりをすることと、子どもが育つ環境を醸成することであると考察した。さらに、関係職種との連携・協働につなげる養護教諭のコーディネートの実践への４つの示唆が得られた。

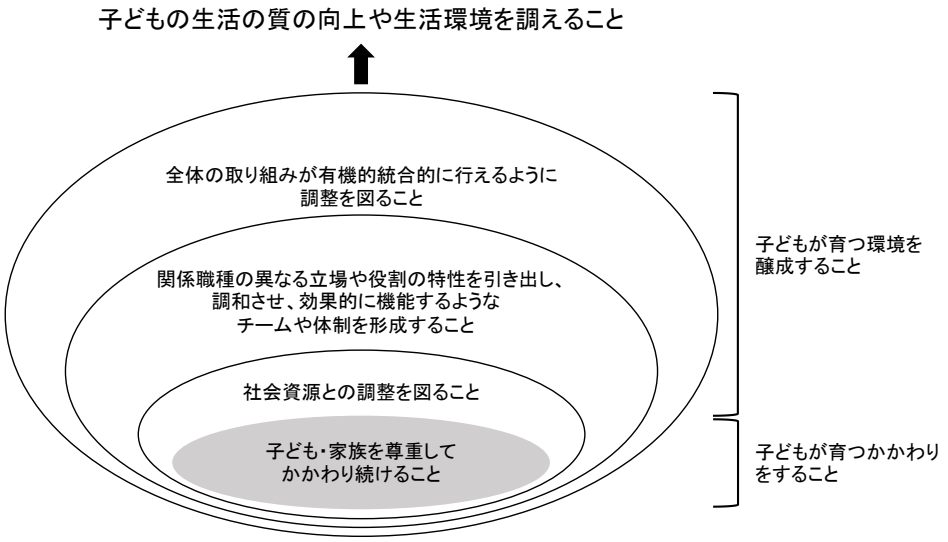

図１　連携・協働のコーディネートの概念図*

＊「亀崎路子編著：養護教諭のためのヘルシースクールハンドブック―これからの養護教諭に必要なこと―，杏林大学保健学部教職課程運営委員会，ぶんしん出版，2024，183-188」より引用

(2)　研究２では、子ども支援を意図して学校内外の関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践についてのインタビュー調査を行い、質的記述的な分析を行った。その結果、協働のコーディネートにかかわる養護教諭の実践は、６事例から 191 コード取り出された。

コードの中から、子どもの健康課題に気づき、子ども支援のための学校内外の関係職種との協働を効果的にコーディネートする際に、養護教諭が遭遇する現場の状況や困難は、34 件抽出され、表１の通りに整理された。それは、子どもが保健室を居場所にするといった来室傾向、学級担任の傾向や力量に起因する状況、管理職の傾向に起因する状況、校内組織や支援体制づくりの傾向や問題に起因する状況、保護者の傾向や認識に起因する状況、主治医・関係職種との相性に起因する状況、関係機関の支援体制の切れ目に起因する状況、保健室の物理的な環境に起因する状況であることが明らかとなった。

表１　養護教諭のコーディネートにおける困難な状況

分類	代表的な困難な状況の要約
子どもの来室傾向	教室にも家庭にも居られず保健室に子どもが入り浸る状態
学級担任の傾向や力量に起因する状況	学級担任が不登校を家庭の問題にして子どもへの支援を諦める傾向など
管理職の傾向に起因する状況	思いの強い管理職に支援の意図を説明することの困難さ
校内組織や支援体制づくりの傾向や問題に起因する状況	直接子どもにかかわる養護教諭には情報提供のみで、対応を検討する場に呼ばれず情報も方針もない中進んでいくこと 学校の組織や役割権限を踏まえて動くことにこだわる思考が働くと、子どもへの支援が停滞する傾向　など
保護者の傾向や認識に起因する状況	医療機関を受診するまでに親が超えるべきハードル 関係機関や関係職種とつながろうとしない保護者との温度差に動きがとれない状況　など
主治医・関係職種との相性に起因する状況	主治医の交代を転機に新しい主治医との相性が良くなく状態が悪化する状況
関係機関の支援体制の切れ目に起因する状況	児童福祉法で規定されている 18 歳以上の生徒への児童相談所の支援の切れ目
保健室の物理的な環境に起因する状況	保健室が職員室から見えない物理的に孤立した環境にあることから生じる日常的な疎外感　など

次に、協働のコーディネートにかかわる養護教諭の実践は、191 コードから、71 サブカテゴリー、18 カテゴリー【ニーズの発掘】【子どもの尊重】【子どもの代弁】【子どもの後押し】【母親の尊重】【連携につながる関係の構築】【ネットワークの構築と活用】【連携・協働の足固め】【関係者の参集の場づくりと協働する組織への波及】【専門性の共有】【専門的視点からの介入】【チームづくり_前半】【チームづくり_後半】【社会資源への照会と支援に結び付ける調整】【有機的な環境の醸成】【支援の質の確保】【システムの調和】【コーディネートの省察】が生成された。この 18 カテゴリーをコーディネートの構成要素として実践モデル案を作成し、対象養護教諭と共同研究者によるメンバーチェッキングを得て、養護教諭関連の学会発表での意見収集を通じて実践モデル案を洗練し、実践モデル（図１）を策定した。

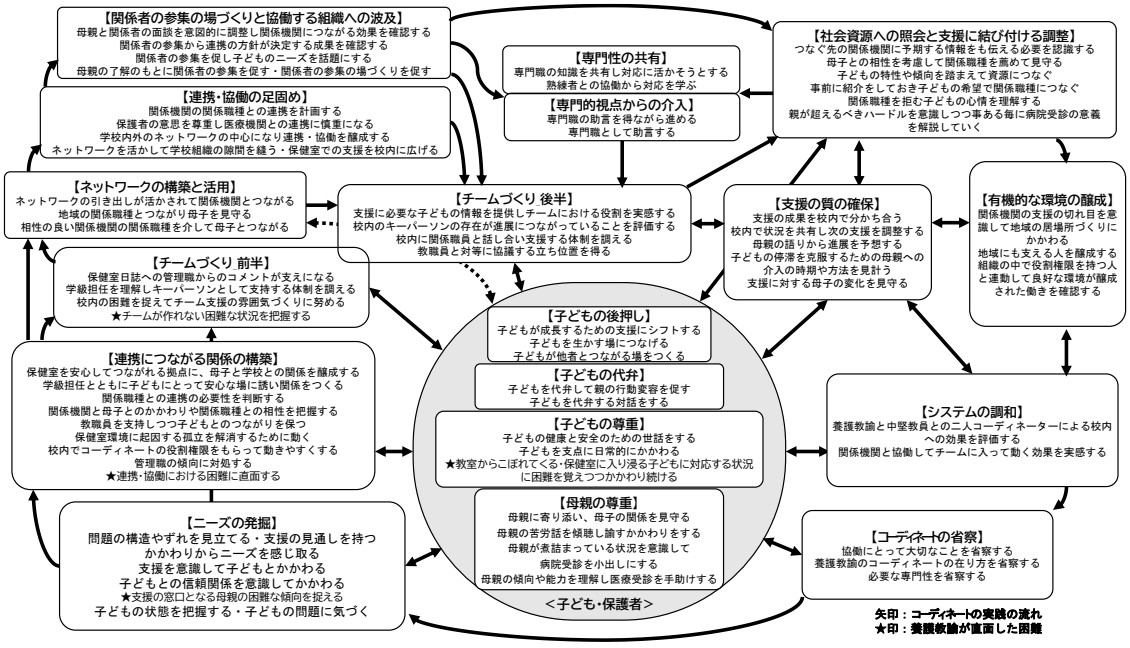

図１　子ども支援のための協働をコーディネートする養護教諭の実践モデル

次に、文献レビューや先行研究から導いた養護教諭のコーディネートの局面を概念的枠組みに用いて構造化して、実践モデルの構造（図２）を示した。

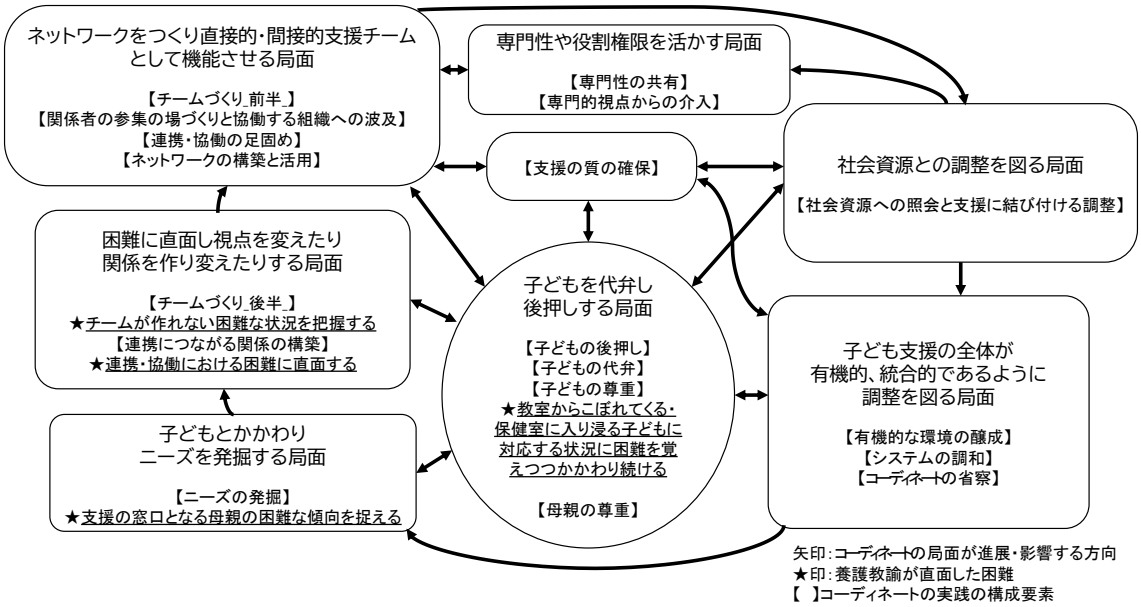

図２　養護教諭のコーディネート実践モデルの構造

実践事例の調査から、養護教諭はコーディネートにおける困難な状況を解消するために働きかけていること、養護教諭のコーディネートとは、子どものニーズに対して、困難な状況を解消しつつ、直接的に子どもが育つかかわりをするとともに、周囲の人との関係をつなぎ、子どもが育つための環境を醸成することであるという知見が得られた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 亀崎路子，黒子彩子	４．巻 19
２．論文標題 多領域における関係職種との連携・協働のコーディネートに関する文献レビュー―養護教諭のコーディネートへの示唆―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 学校健康相談研究	６．最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀崎路子，竹俣由美子，河野千枝，古谷明子，山中寿江，中川裕子，上原美子	４．巻 17
２．論文標題 養護学の構築に向けての基礎的研究―養護教諭の日常対応場面の事例検討による「養護」の探究―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 学校健康相談研究	６．最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀崎　路子，河野　千枝，古谷　明子，山中　寿江，上原　美子，中川　裕子，大谷　尚子	４．巻 16
２．論文標題 養護学の構築に向けての基礎的研究―養護教諭としてのライフを通じた「養護」の探求―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 学校健康相談研究	６．最初と最後の頁 ５９～７２
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 亀崎路子，黒子彩子
２．発表標題 子ども支援のための関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践における困難な状況―養護教諭の実践事例の検討―
３．学会等名 学校保健学会第68回学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 亀崎路子，黒子彩子，田中美千子，山田小夜子，渡辺美恵，竹俣由美子，小林芳枝
２．発表標題 子ども支援のための関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践モデルの策定―養護教諭の実践事例の検討―
３．学会等名 日本学校健康相談学会第19回学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 亀崎路子，黒子彩子
２．発表標題 関係職種との協働のコーディネートに関する文献レビュー―教育・医療・保健・福祉を含む多領域における検討―
３．学会等名 日本学校健康相談学会第17回学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 亀崎　路子
２．発表標題 学校健康相談におけるチーム支援―養護教諭の「見立て」から考える―
３．学会等名 日本学校健康相談学会第16回学術集会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

亀崎路子：養護教諭らしい子ども支援の協働のコーディネート，所収　養護教諭のためのヘルシースクールハンドブック―これからの養護教諭に必要なこと―，杏林大学保健学部教職課程運営委員会，ぶんしん出版，2024，183-188

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関